

令和 5 年度

事業所名： グループホームとどろき

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500296		
法人名	花巻農業協同組合		
事業所名	グループホームとどろき		
所在地	〒025-0132 岩手県花巻市北笹間13地割71番地		
自己評価作成日	令和5年12月25日	評価結果市町村受理日	令和6年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした共用ホールと談話室や居室があり、各利用者様がそれぞれに好きな場所で過ごされています。平均年齢が90歳と高齢化していますので、個々の体調に応じてADL維持のために軽体操やリハビリを兼ねたレクリエーションを取り入れて行っています。また、入浴以外に足浴を行い、血行改善や皮膚疾患の予防に繋げている方もいらっしゃいます。利用者様の思いにそったケアの実現に向けて、センター方式のアセスメントを実施しています。また、ご家族、ご本人の希望により看取りも行うことができる施設です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街地から南東8^{キロ}程度離れた田園地帯にあり、平成29年にAコープを改修してオープンした。改修した施設であるため、一般の事業所と比較してスペースが広く、利用者はゆったり伸び伸びと過ごしている。介護のツールとしてセンター方式を導入し、チームでのケアを目指して取り組んでおり、その成果は介護計画の作成やその実践にも現れている。地域とのつながりはコロナ禍で一時的に希薄になっていたが、最近はそのつながりが戻りつつあり、特に子ども園や学童クラブ等との交流が活発に行われており、利用者の大きな楽しみとなっている。9月からは、運営推進会議を利用者の家族全員を委員とした構成にしており、家族の委員からの意見が運営業務の改善に結びつくなど、会議の活性化に積極的に取り組んでいる。更に今年度から、共用型認知症対応型通所介護事業を始めたほか、事業所で看取りまで行うこととするなど、住み慣れた居宅として、事業所で最期のときを心安らかに迎えられるよう幅広い対応に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年1月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホール、事務所に掲示し朝礼や定例会で唱和し、共有して実践に繋げている。	経営主体であるJAいわて花巻(以下「法人」)の基本理念を基軸として、同福祉課の高齢者福祉事業理念と地域密着型サービスの意義を踏まえた「目くばり、気くばり、思いやり」とする事業所理念とがある。昨年は、職員を対象に事業所理念の見直しについてのアンケートを行ったが、現行の理念は介護の基本となるポイントが簡潔に示され、職員は日々のサービスの基本として常にこれを意識して行動していることから、継続して事業所理念として掲げ、唱和の場などを通じて実践にしっかり結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への広報配布、学童との交流継続、地域の祭りに参加、幼稚園の神輿見学等、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として交流している。	コロナの5類移行後はコロナ禍前の交流が戻ってきている。子どもたちとの交流は活発で、子ども園の幼児たちのお神輿や児童クラブの踊り、地域の保存会の子どもの鬼剣舞など、事業所を訪れ披露してくれている。地域の自治会に加入しているが、未だコロナ禍の状況にあるため地域の人形祭などこじんまりした催しのみに出かけている。そのような状況下でも、事業所に隣接する笹間振興センターでは、JAの女性部も参加する地域のボランティアによる「お茶会」の交流なども行われており、事業所側から積極的に交流するまでには至っていないが、できるだけ地域とのつながりを保つよう心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、社会福祉協議会主催の地域福祉活動計画の委員として出席し、地域の人々に向けて発信している。また、広報紙を振興センター等に配布し、施設の様子を発信している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員に全利用者のご家族になって頂き、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている	今年度は事業所で対面開催している。加えて、家族が事業所のサービスへの理解を深め、意見を述べることで運営推進会議の活性化にもつながることから、9月の会議から利用者の家族全員を委員に指名し、9月には2名、11月には3名の家族が会議に出席して意見を述べている。また、会議での意見を日常のサービスに取り入れた例としては、地域の夏祭りへの参加を勧める意見に沿って、今年度は夏祭りに参加したことなどが挙げられる。	地域とのつながりを深めたり、災害時等の支援につなげるために、町内会代表や警察署、消防署の職員に委員になってもらうこと、避難訓練が終わった後に会議を開催し災害時の対応をテーマに話し合うこと、事業所スタッフが例えば書記として交替で参加して直接委員の意見を聴きとることなど、会議をより効果的に運営できる可能性を持つことから、それらの取り組みを進めることについて積極的に検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告等日頃から市の担当者と連絡を取り、業務の実情等報告しながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市との関係は良好であり、事故報告や認定調査の際に事業所のサービスについて話し合いを行っている。市では福祉施設向けに関係情報の発信や、市と相互に情報交換もできる「ネット掲示板『ケア倶楽部』」を設けており、事業所においてもこの掲示板の情報を職員研修や市に対する意見提出の際に活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設け、定期的にも研修もしている。センサーマット使用時はご本人・ご家族に説明と了承を得ており、定期的にも使用に関して見直しも実施している。	4年度に策定した法人としての指針に基づき、各事業所ごとに身体拘束適正化委員会を設けている。JAいわて花巻の専務をトップとする法人の委員会が開催されているほか、各事業所でも同委員会を年2回開催し、委員会には職員全員が参加している。虐待チェックリストによる確認を年2回実施しており、職員全員が個々にチェックした後で事業所としても取りまとめを行い、年1回は各事業所ごとに傾向を見ている。年2回ウェブでの職員研修を行い、管理者にその結果を報告している。センサーマットは、車椅子利用者3名のうち2名、それ以外で転倒リスクのある利用者1名が使用している。各部屋の施錠はせず、玄関も防犯のため19時から翌朝6時までのみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について年2回の研修会及び認知症研修等で学ぶ機会を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が岩手県成年後見制度促進ネットワーク会議の委員となっており、自立支援事業や成年後見制度の推進等を関係者と話すことはあるが、現状、当施設のご利用者・ご家族様には必要とされる方はいらっしやらない状況。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、ご利用者・ご家族様に説明時質問を受けながら理解と納得を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中で希望・要望があれば可能な限り叶えるよう支援している。ご家族様とも訪問・面会時や電話、メール等で連絡をとりながら伺っている。	運営推進会議の委員として、利用者の家族全員を加え、家族から意見を聞く機会が増え、出される意見をもとに日々の運営に反映している。「請求書が小さくて見づらいとの意見があり、その意見をもとに請求書をA4版に拡大」している。加えて、請求書送付時には、日常の様子を記した手紙や写真も添えており、家族とのやりとりは多い。「部屋の装飾や物の配置等の居室環境」についての意見も寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートや毎日の申し送り、月1回の定例会や定期的な面談の中から出来る部分から反映している。	職員の意見を聴く機会として、日常勤務の中や月1回の職員会議、年1回の定例面談、さらには職員アンケートを行って意見を引き出している。今年度は虐待チェックリストについてアンケートを行った。加湿器の更新やトイレの「ふんばる君」の設置は、職員の提案を具体化したものである。面談では、シフトの問題、家族の介護の問題、職員本人の体調の問題なども多く出される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施しつつ、職員アンケートを実施しメンタル等も把握しつつ要望も聞きながら人事等配慮している。仕事のやりがい等各自に面談時聴く機会を設けている。		

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内の介護向上研修、事業所内の認知症研修、外部のいわて地域密着型サービス協議会への事例発表や認知症実践者研修の研修を受ける機会の確保や、OJT等を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協議会の勉強会や事例検討会に出席し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント資料等を基に、コミュニケーションを多く持ち、表情や仕草にも気を使って、思いを聞き取る努力をしている。また、笑顔でコミュニケーションを図る事で安心して頂くよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントを丁寧に聞き取り、ご家族と密に連絡を取りながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、ご本人とご家族等が「その時」まず必要としている支援を聞き取り見極め、他のサービス利用も含め、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式を用いて生活リズムを観察し、その人らしい生活ができるよう職員が意識し関わるようにしている。ご本人のできる事に着目し、お互いに「お願いします」「ありがとうございます」「お互い様です」という声が聞かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月居室担当が状況報告書を作成し、ご家族に送付している。生活必需品の購入、通院等ご家族様への役割も極力お願いし、ご家族様との関係性を切らないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に聞きながら、自宅への外出、馴染みの物を居室へ置くなど、環境に配慮している。また、友人や親類との面会も対応し、社会との関係性を継続できるようにしている。	利用者には自宅への外泊を勧めているが、家族がコロナの感染等を心配するケースもある。利用者自身も、馴染みの人との関係が希薄にならないように、自らつながりが切れないようにしている方もいる。また、住んでいた地域の民生委員が訪ねてくれる場合もある。馴染みの場所の一つにかかりつけ医の受診があり、その際は家族が同行して会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や認知症の症状の進行を配慮し、気の合う利用者同士が関われるテーブル配置等工夫している。また、レクレーションを通して交流出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後にも、必要に応じご本人、ご家族の経過をフォローしている。また、以前利用していたご家族が来訪されることもあった。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をご本人、ご家族から聞き取るように努めている。	センター方式を導入し、シートに記載されているこれまでの生活背景を基礎にしながら、現在の思いや意向の把握に活用している。また、最新の本人情報は毎日の申し送りシート(A3・1枚に利用者全員のその日の状況を記載)を確認することで状況を把握し、この基礎データに基づきながら利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をご本人、ご家族から聞き取るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らし状況の記録や各チェックシート、申し送りにより情報共有し現状の把握に努めている。		

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用いて本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居時に暫定の介護計画を作成し、概ね1～3か月で見直しを行っている。その後は、居室担当が家族からの意見も参照してセサメントシートを作成し、3か月ごとに職員カンファレンスを行い、目標の達成状況や身体状況等について確認している。これらを基に、ケアマネージャーが、訪問看護師(週1回)のアドバイスも参考にしながら、6か月単位で計画の見直しを行っている。計画策定全体をセンター方式に基づいて行い、チームとして行うケアを目指して取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、タブレットでいつでも見られるようにし情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度より、グループホーム待機者のリロケーションダメージを少しでも緩和し、スムーズに入居できるよう、認知症共用型通所介護事業所をスタートし、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容、訪問歯科、移動図書、農協女性部の協力での花植え、本人ミーティングや祭り等への参加、地域の社会資源を活用しながら、安全で、生活に豊かさを感じられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の受診を継続している利用者が5名、事業所の協力病院を受診している利用者が4名となっている。かかりつけ医の場合は原則として家族が、協力病院の場合は職員が同行して受診しており、受診結果は相互に報告し合っている。なお、歯科については月に1回の訪問診療を受診している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、入院時等に同行し病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、訪問看護等との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度、事業所としての看取り介護指針と看取りマニュアルを作成し、事業所として看取りまで行うこととし、これまで1名を看取っている。夜勤の職員1名だけの対応であったが、職員全員で自宅に戻られるご遺体を見送った。訪問看護師の研修等も受けながら利用者や家族に安心してもらえるよう努めている。なお、看取りを行うこととしたものの、利用者や家族の意向が優先されることから、介護度3以上になれば特養に入所できることをお知らせしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED等急変時の対応等の研修を実施している。応急手当の訓練は実施していない。		

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災における避難訓練を年2回実施している。水害等の避難訓練は来年度から実施予定。	ハザードマップの指定地域ではないため、火災想定での避難訓練を年2回、1回は消防署の立ち合いの下で実施している。夜間想定での訓練も行っているが、1人勤務のときの対応は難しいと感じている。避難先は隣接する笹間振興センターとしているが、非常ベルへの利用者の反応や車椅子の利用者の避難対応など課題も多く避難は簡単ではないため、近隣に居住する職員のほかに、利用者を見守る近隣住民の支援が不可欠である。事業所としては、近隣住民の理解と支援を得られるよう、法人・事業所一体となって話し合いの機会づくりに努めている。なお、食料品等は3日分残るように購入し順に使用しているほか、発電機や石油ストーブ、防寒着や毛布などの備品等も備えている。	現実的に夜間避難時には人員が必要であり、田園地帯のため町場と異なり近接して居住する住民は少ないと思われる。そのため、普段からの声掛けなど、周辺地域住民との地道な関係づくりが大事であり、少しずつ前進できるように努力を重ねていくことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴、性格等を把握しその方にあった言葉掛けの対応をしている。	居室に入るときは、部屋に不在でも必ず事前に了解を得た上で入室するようにしている。農業に従事していた利用者が多いことから、畑での作業などそれぞれの利用者が持つスキルを自信をもって活かせるようなことをお願いしている。職員は毎年度、法人主催の接遇研修を受け、人を尊重する心と姿勢への学びを重ねている。スピーチロックは、研修や日常の振り返りも行っているが、危ないときは「危ない」と言わなければならない、そのことを理解した上で声になっている。トイレ、入浴の場面ではまさに「目くばり、気くばり」の心で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物やテレビ番組、音楽の選択等、その都度希望を伺って対応している。意思表示が難しい方は表情等推察している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思確認しながら身体状況、環境に合わせ、可能な限り希望に沿って過ごしていただくよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床時の整髪や衣類の調整、手直しを手伝っている。爪切り・散髪の定期的支援は実施している。行事でおしゃれをする事も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつレクで、一緒にデコレーションをしたり、誕生日では希望に沿ったメニューにしたりしながら、好みや力を活かしながら食事を楽しんでいる。また、食事の後片付けを一緒にしている。	食事のおかずは、業者から1ヵ月単位の献立表がある調理済み食品を3日分ずつ搬送され湯煎して提供しており、ご飯とみそ汁は職員が作っている。利用者が手伝うこともあり、普段は食器の片付けやおしぼりの準備を手伝ってもらっている。お茶碗とお箸は自分のものを使っている。行事食は、業者の行事食の場合と職員と利用者が一緒に作る場合があり、何れも好評である。誕生会の食事は本人の希望で職員が作っており、五目チラシや甘酒などを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量のチェック・記録をしながら、栄養補助食品等の提供やムース食を取り入れ、栄養摂取量に配慮している。以前の食事習慣に近づけるよう馴染んだ食器を持参し食事をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実施している。また、口腔内に問題がある方には、訪問歯科診療を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックし、一人ひとりの排泄パターン、習慣に沿って声掛けしトイレ誘導している。出来る行為はご自身で行って頂き、見守りや一部介助で支援している。	排泄については、完全自立が1名、声掛けが3名、付き添いが5名である。おむつ利用は1名だけで他はリハビリパンツにパットを併用し、夜間はポータブル利用が1名、量の多い3人にはタイミングを見て声掛けをしている。介助のしすぎでレベルを落とさないよう、先んじて対応するのではなく、一人一人の排泄パターンを基に適切なタイミングで介助に当たっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックしながら水分調整や便秘薬の調整をしている。毎日のラジオ体操や必要に応じて排泄サポートを行い、腹部マッサージ等も実施している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な時間、曜日等は施設の業務により決められているが、ご本人の体調、意向等により時間、日にちを替える配慮は行っている。	入浴は、月曜から土曜までの間に、原則週2回、1日3人としている。通所サービスが始まったことから、時間帯は日によって異なる。なお、当日の利用者の状況や体調に応じ、日程は柔軟に対応している。車椅子利用者の3名は機械浴としている。菖蒲湯など季節のお風呂を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望で、室温・明るさ・衣類や寝具の調整を行っている。また、体調に合わせて休憩時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書、医師からの指示等を情報共有している。症状変化時は訪問看護や主事医に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回は行事を実施、また、本人ミーティングにも参加されたり、ドライブや散歩等で外気浴を行ったり、ご本人の生活歴や嗜好等に配慮して気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見ドライブやオレンジ談話室、地域のイベントに可能な限り出掛けるよう努めている。	日常的な外出として散歩や畑仕事があり、職員と一緒に比較的頻繁に出かけている。また、お花見ドライブは花巻や北上が中心であり、花巻温泉や利用者の要望で本人の馴染みのお花見の場所に出かけることもある。「オレンジ談話室」(事業所の敷地内にある「コッホの館」の談話室で、地域包括支援センターが毎月1回開催する、『認知症予防推進員による本人ミーティングや本人・家族のグループミーティングの取り組み』)には、ミーティングを受ける受けないに関わらず気軽に散歩がてら出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望され、ケア上必要な方には所持して頂いていたが、現在は希望しての方がいない。		

事業所名 : グループホームとどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話をかけ、ご本人と代わっていただくことはある。手紙のやりとりは、現在は希望される方はいらっしゃらない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごす事が出来るよう、エアコンや加湿器を活用し、温度、湿度等に配慮している。また、ホールの壁面には、職員と利用者が一緒に作成した季節の飾りを装飾し、季節感を感じて頂いている。また、長椅子等状況に応じ配置を変更し、居心地の良い環境をつくる工夫をしている。	事業所は大きくホールスペース(共用空間)と居室スペースに分かれ、夜間はホールスペースは閉められる。ホールスペースは毎月飾りつけを変えており、正月、七夕、クリスマスなどの行事に合わせた飾りつけ等も行われている。事業所はAコープを改修した施設であり、一般の事業所と比べてかなり広く、天井も高く採光も十分に居心地の良い空間である。その広さを活用して通所サービスが始まったが、広すぎて目が届かないことがあるものの、利用者は好きな場所にゆったり伸び伸びできる居心地の良さを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のスペースが広いので、小上がりや長椅子の配置を工夫して、自由に過ごせる空間の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族とも相談し、馴染みのある布団や衣装ケース、飾り物等を持参いただいている。また、ご自分で制作したものを飾るなどしながら、居心地良く過ごせるような環境を整えている。	居室のスペースは一般の事業所と比べてかなり広く、馴染みのあるものや本人が作成した絵画などを飾ったりしている。見方によっては閑散とした印象も受けるが、利用者本人はそれほど広さを気にはしていないようであり、自分の居室としてゆっくりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床材が柔らかい素材のものを使用しているなど安全に配慮した作りとなっているが、全体的に広い作りとなっているため、職員の見守りの範囲が広くなり、特に転倒リスクが高まっている状況。ご本人の体調等日々の申し送りでもリスク低減を行っている。		